新潟県租税教育推進協議会長賞優秀

『私たちの未来のために』

新潟県立柏崎翔洋中等教育学校　四年　浦澤　帆南

「大丈夫ですか」その救急隊員の言葉に救われた人は数多くいると思う。身分や貧富の差など関係なく、誰もが平等に救急車を呼べば、救いの手が差し伸べられる。私は、これはすごく素敵なことだと思う。でも、この安全を当たり前だなんて思ってはいけない。なぜなら、この仕組みは私たちの税金によって支えられているからだ。

アメリカなどの海外では、救急車を呼ぶと約十五万円から三十万円以上請求されることがある。だから、費用の高さを恐れ、救急車を呼ぶことを躊躇い、命を落としてしまうことも少なくない。だが、私たちが住んでいる日本では、その場でお金を支払うことがないため、一瞬の迷いもなく、救急車を呼ぶことができ、たくさんの人の命が救われている。

しかし、悲しい事実を私は知った。それは救急車を利用した約二人に一人が、入院を必要としない軽症者であることだ。もちろん軽症とされた人でも、救急車が必要だった人はいる。しかし、「タクシーが捕まらなかった」「今日、通院する日だから」といった個人的な事情で救急車を呼ぶ人が数多くいることも報告されている。約四万五千円。それは、一回の救急車の出動でかかる全費用だと言われている。そのお金は、命を救うためにみんなで集めた大切な税金だ。国民全員の、安心安全のためにあるお金。だからこそ、一人一人がモラルを守ることが大切だと私は思った。

税金は、教育や医療福祉、公共サービス、施設の整備などさまざまな仕組みを支えている。だが、今の日本は少子高齢化という問題に直面している。高齢者の医療、年金、介護など社会保障が増える一方、税金を払う若い世代が減っていき、一人の税金負担が大きくなっているということだ。このままだと私たちが大人になった時、今ある国民の安心安全の仕組みが守れなくなってしまうかもしれない。だからこそ、私たちは、税金の大切さやありがたみを忘れず、正しい使い方をし、今あるたくさんの素敵な仕組みを未来に残していかなければならない。

税金は、私たち国民のためにさまざまなところに使われ、多くの場面で生活を支えてくれている。税金は「ただの納めるお金」ではなく、「誰かの大丈夫を支えるお金」だ。自分が大人になったとき、安心安全で豊かな日本であり続けるために、きちんと納税できる大人になりたい。次は、私たちが社会を支え、命を守る番。私たちの明日のために、そして未来のために。